

「令和元年度 保育セミナー」報告書

- 【期 日】 令和2年2月16日(日)
【会 場】 有明スカイパーク ふれあい郷 自有館
【主 催】 佐賀県保育会
【参加者数】 50名
【内 容】
挨拶 13:50～14:00 指山健次郎 氏(佐賀県保育会 会長)
研修1 14:00～16:00 森 恵美 氏(武雄市レクリエーション協会 会長)



研修1 『心を元気にするレクリエーション

～あそびを通したコミュニケーションワーク～』

講師 森 恵美 氏(武雄市レクリエーション協会 会長)

プログラム

- ・支援者 対 参加者(手遊び、ポーズ合わせなど)
- ・参加者同士 1対1(じゃんけんあそびなど)
- ・参加者のかかわり3～4名(リズム手合わせ、木の中のリスなど)
- ・5人以上グループ(知恵を出して行うゲーム、ジャンボじゃんけん)
- ・新聞はあそびの世界が広がる絶好の素材
- ・新聞であそぶ展開法

要点

- ・レクリエーションという言葉(目的)は「心を元気にすること」。
- ・レクリエーション支援とは自主的、主体的に心の元気は構築されるが、一人の力では容易に回復できない場合もあるので、こうした場合にゲームや歌などを手段として用いて、人々が心を元気にすることを手助けすること。
- ・コミュニケーションがすべての基盤である。
- ・あそびは理屈抜きに夢中になれること。あそびやレクリエーション支援にもっとも重要なことは、相手と「同じ考えを共有する」コミュニケーション能力。
- ・強制ではない主体性・信頼関係。



(報告又は感想)

「親子でもスキンシップの仕方が分からない人がある」との話もあり、コミュニケーションが希薄になりつつある現代だからこそ、レクリエーションで親子共に心を元気にする必要性があることを実感しました。“心を合わせる”きっかけを作り、遊びを通して『たのしい！うれしい！おもしろい！』を体感できるように、保育者は意図的に自然にコミュニケーションを図ることが大切だと思いました。

(文責: 嬉野ルンビニこども園 一ノ瀬美和)